

高松支部 研究のあゆみ

- 1 研究主題 児童が言葉を通してつながり合う国語科授業の創造
～「課題を解決したい」という関心，「話せた・聞けた・書けた・読めた」
という自信がもてる授業づくり～

2 研究活動の概要

- (1) 4月 研究組織作り，研究主題の設定，年間計画作成
6月3日 第1回研修会 開催中止
北ブロック 牟礼南小学校（1年）・・・みんなにはなそう
庵治小学校（3年）・・・あらすじカードを作ろう「はりねずみと金貨」
南ブロック 田中小学校（3年）・・・メモで聞き上手！「メモを取りながら話を聞こう」
氷上小学校（2年）・・・やさしい日記をつくろう
～かんさつしたことをかこう～
- (2) 7月21日 夏季研修会 第1回研修会（6月3日の授業）の実践発表
香川大学教育学部 佐藤明宏先生の講話
「国語科教育の不易と流行～教材（学習材）の変遷と学習指導法の変遷～」
- (3) 9月30日 第2回研修会 集合研修中止→代換措置
北ブロック 直島小学校（1年）
「サラダでげんき」の音読劇発表会を通して，お話の面白さを伝えよう
附属高松小学校（5年） 物語のレビューを書こう 「注文の多い料理店」
南ブロック 鶴尾小学校（2年）
ことばをつないで楽しく話そう～うれしくなることばをあつめよう～
白山小学校（4年）
ワンダ先生に伝えよう！和と洋のよさ「くらしの中の和と洋」

3 研究内容

- (1) 「課題を解決したい」という関心を高める単元構想や学習問題の工夫

児童の実態把握や単元で付けたい力を見極め，児童が関心をもち続け，主体的に学ぶ単元構想や学習問題の設定を考える。

北ブロック

- 1年「みんなにはなそう」
- タブレットを活用することで，児童の意欲が高まった。
 - クイズづくりで楽しい雰囲気を取り組めた。
 - 一人一人の児童の実態把握が難しく，個別の支援が必要な場合が多くあった。
- 3年「あらすじカードを作ろう」
- 2年生にあらすじカードを渡したいという目的を持って取り組むことができ，粘り強く取り組む原動力となった。
 - 場面ごとに読み取り，表にまとめる活動を繰り返し行うことで，キーワードを探す力，まとめる視点が身についた。
 - あらすじと紹介文では別の書きぶりが必要。2年生が読みたいと思える紹介になるとなおよい。

南ブロック

2年「やさしい日記をつくろう」

- 「家族の〇〇に伝える」と具体的に決めたことにより、相手によりよく伝えようとした。

3年「メモを取りながら話を聞こう」

- インタビュー動画で意欲化が図れていた。
- メモすることが目標ではなく、地域の自慢を見つけて自慢ブックを作ることをゴールにし、相手が伝えたいことが捉えられる事を大切にしたが、児童の意識ではメモを取ることが先行してしまった。

(2) 「話せた・聞けた・書けた・読めた」という自信がもてる指導過程の工夫

できた、分かったという成功経験を積む機会を設けることで、付けたい力が身に付き、課題解決に対する自信がもてる学習の進め方や具体的な働きかけを考える。

北ブロック

1年「みんなにはなそう」

- 聞くことに焦点を当て、声のものさしで声の大きさを確認したり、「聞いてください」「はい」のやりとりをしたりした。
- 児童が見つけた思いがけない物に対する教師の柔軟な対応が必要。

3年「あらすじカードを作ろう」

- あらすじをまとめるポイントが可視化され、児童にとって分かりやすかった。
- あらすじを書く力があるので、読み取りをより深めると、思いやりや優しさにも目が向いたのではないか。

南ブロック

3年「メモを取りながら話を聞こう」

- 自分のメモと友だちのメモを見比べてよさを見つけ合ったり、前回と今回のメモを見比べて変化を実感できたりした。
- 「他の先生の話もメモを取りながら聞いてみたい」などと、今後の意欲につなげることができた。
- 丁寧にメモを取ろうとする児童がいたので、スピード感にも気付けると良かった。

(3) 自分の学びを認識できる振り返りの在り方

振り返りの視点の与え方や時間の確保など、自分の学びを言語化するための手立てを工夫する。

南ブロック

2年「やさしい日記をつくろう」

- タブレットの活用で、前回の自分と比較しやすく、児童自身も「できた」「書けた」という喜びが実感できた。
- 振り返りを毎時間行い、カレンダー方式で蓄積したことで伸びが視覚的に感じられた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

○付けたい力を明確にし、その力につながる「関心」を高め、「自信」をもたせる

- ・ どの授業においても、単元を通して相手意識をもっためあてが設定されており、意欲的に取り組むことができていた。また、タブレットを活用した授業が多かったが、児童が使いこなせており、主体的に学習に望む姿勢が見られた。今回タブレットを使用した授業では、「一人一人が写真で紹介したい物を選んで見ることができる」、「短い言葉でまとめる力が付く」などの利点が見られたので、今後も活用場面を考えていく必要がある。

○学び合いの振り返り・評価

- ・ タブレットは記録を残すのにも便利で、前回と比較しやすいことから、自分の伸びを実感できるため、振り返りにも多く活用されていた。

【今年度の研究での課題】

○関心・自信がもてる指導過程の工夫

- ・ 今回の授業では、個別の作業（メモ・日記・クイズ・カード）が多く、学び合いの交流の場では書きぶりや観点についての確認が多かった。経験と児童たちの考えをつないだり、話し合うことで一人一人の考えが深まったりするような交流の場を設定する必要がある。

○板書

- ・ 板書と電子黒板、ノートとタブレットとの併用をどのようにしていくかが今後の課題となってくる。

丸亀支部 研究の歩み

1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開

— 付けたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり

「自信」をもたせたりする授業づくり —

2 研究活動の概要

- (1) 4月 研究組織作り，研究主題の設定，年間計画作成
- (2) 6月22日 郡家小学校 研究授業・討議
4年「人物の様子や気持ちを考えながら読もう」—『走れ』
- (3) 12月1日 城南小学校 研究授業・討議
2年「外国のことをしょうかいしよう」

3 研究内容

- (1) 6月22日 郡家小学校 研究授業
4年「人物の様子や気持ちを考えながら読もう」—『走れ』

行動や様子を表す言葉から登場人物の心情の変化を具体的に想像することを目標とし、以下の点に留意した授業を行った。(感染症対策のため、事前・事後の討議は校内で行い、部員は指導案等の資料をもとに意見を伝え研修とした。)

① 既習事項の掲示

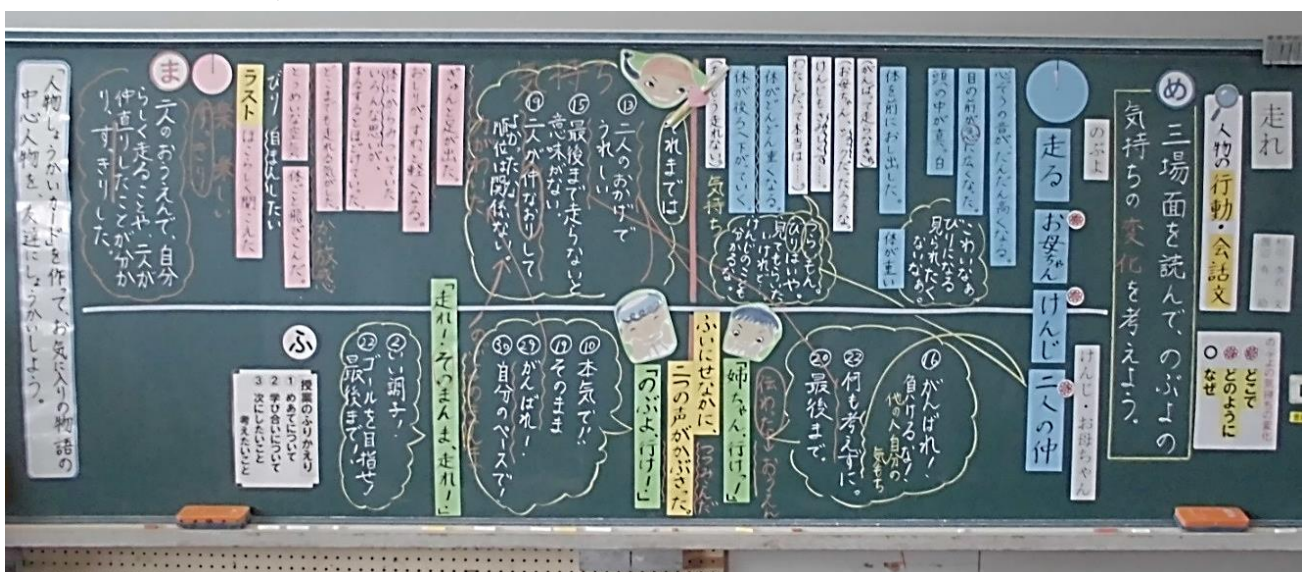
本文にこれまでの読み取りを書き込んだものを毎時間積み重ね掲示しておくことで場面と場面をつないだ読みをしたり、比べて考えたりすることができる児童も多かった。

② 心情円盤の活用

心の揺れを心情円盤で表すようにし、どうしてそう表したのかを書くことで気持ちの変化を視覚的に捉えやすくすることができた。

③ マイブックやワークシートの活用

本文を打ち直し、一つの場面を一枚のシートにすることで読みやすくなった。板書と対応させたワークシートを用意し、登場人物の心情を上下にまとめていけるようにした。



【成果と課題】

- 複数の叙述を根拠にしたり、他の場面とつないだりしながら、のぶよの心情の変化を説明することができた。読むことに自信をもてたことで、自分の物語を選ぶ際に、意欲的に読み進めて人物紹介カードを書く姿が見られた。
- 授業形式（板書、心情円盤、交流の仕方など）をパターン化することが、時間短縮や先を見通した主体的な学習につながった。
- 話し合いにおいて友達の考えに付け足すなど、一人一人に役割があり、自分の考えに価値があることが実感できたことにより、普段の授業ではなかなか活躍の機会が得られない子どもも積極的に取り組んでいた。「今日も国語が楽しみ」と意欲を高める要因にもなっていた。
- 評価を取り入れながら、授業を柔軟に調整していくためには、それに対応した教師の資質・能力を高めていく必要がある。
- 子ども自身も経験したことがあるような物語であったので、どの子どもも共感しながら読むことができた一方で、叙述に即して読み取れなかったり、自分の考えを変えられなかったりした子どもがいた。評価を取り入れていく中での、子どもの学び方の定着も必要である。

（2）12月1日 城南小学校 研究授業・討議

2年 「外国のことをしょうかいしよう」

聞き手を意識して、調べたことの構成を考え、話し方を工夫して伝えることを目標として以下の点に留意した授業を行った。

① 互いのよさを認め合う交流

タブレットを用いて、発表の様子を動画として記録し、振り返りながら自分の課題や友だちの発表のよさに気づき伝え合う活動を行った。

② 話し方の工夫の明確化

本時では声の抑揚や強弱、間のとり方に絞って話し方を練習することで互いに明確にアドバイスができるようにした。



【成果と課題】

- 動画で振り返ることで、自分の課題や練習の成果が意識しやすかった。またアドバイスも根拠を明確に示すことができて動画の利用は有効だった。
- どこでどんな工夫をすると効果的か、他のグループとの交流があると効果的だった。

4 県の研究との関連

【今年度の研究の成果】「自信・関心」を高める

個人での課題解決の時間の後、グループでの交流を取り入れることで、互いのよさを学んだり、アドバイスし合ったりすることで自信・関心を高めていくことができた。

【今年度の研究の課題】

自信をもたせるためには、言語能力の伸びを実感し、学んだことが生かされた成功体験を積む必要がある。人物紹介カードなどを作った後、発表したり交流したりして称賛するなど互いに認め合う経験を積み重ねていくことが大切である。

坂出・綾歌支部 研究のあゆみ

1 研究主題

子どもが自ら学ぶ国語科学習の展開
—付けたい力を明確にし、その力につながる子どもたちの「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくり—

2 研究活動の概要

- (1) 4月 研究組織作り、研究主題の設定、研究計画立案
- (2) 10月20日 提案発表
—研究授業1年 はっけんしたよ「いろんなあき みつけた」
(綾川町立滝宮小学校 藤原先生)の実践をめぐって—

3 研究内容（研究授業より）

本単元は、生活科の「秋見つけ」と関連させて、必要な事柄を集めて文章に書く力を身に付けることをねらいとした。児童一人一人が見つけた「秋」について、観察して気付いたことや思ったことを「はっけんメモ」に書き、それを元に文章を考え、発表するという言語活動を設定した。どの児童も言葉にして伝える喜びや楽しさを味わうことができるように、共通教材としてどんぐりを取り上げ、「はっけんメモ」の書き方やメモから文章を考える方法をペアや全体で考え、共有するというスモールステップで単元を展開した。

本時は、自分の見つけた秋について「はっけんメモ」を書く活動を行った。児童の発見を広げ深める手立てとして観点シールを用いた。目や耳、鼻、手、心の5観点が視覚化され、どの児童も体のいろいろな部分を使って観察し、意欲的にメモを書くことができた。実物やタブレットで撮影した動画を見たり、ペアや全体交流から得た新たな観点で観察し直したりして、メモを書き足す様子も見られた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究の成果】関心を高め、自信をもたせる

- ・ 生活科の「秋見つけ」と関連させたことで、見つけたたくさんの秋の中から、1番伝えたいものを選ぶことができ、児童の関心や意欲を高めることができた。他教科と関連させたことで、生活とつないで考えることができ、言語活動の幅が広がり、学びが深まったとご指導いただいた。

【今年度の研究の課題】付けたい力の明確化

- ・ 必要な事柄を集めて文章に書く力を身に付けることをねらい、さまざまな観点で観察したり、「はっけんメモ」を書いたりできるように支援していた。観点シールを用いて、目や耳、鼻、手、心の5観点を視覚化することで、ペア活動や全体交流を通して、自分にはない観点到気付き、書き加えることができた。どの観点も観察したことを分かりやすく伝えるために大切であるが、本単元では、児童が選んだものによって、伝えるために必要な観点は異なっている。絶対に必要な観点、あると伝わりやすくなる観点、必要のない観点、観察しにくい（できない）観点を考える力を付けていくことの大切さについてご指導いただいた。
- ・ 言語活動で「書くこと」が必要な場合、適度な難しさや文章量になっているか、教員が代筆する等の合理的配慮がなされているかといった支援の重要性が示された。ねらいや授業の本質に迫るために必要な支援を考え、授業を組み立てることが大切である。

仲多度・善通寺支部 研究のあゆみ

- 1 研究主題 児童が自ら学ぶ国語科学習の展開
- 2 研究活動の概要
- 令和3年6月 紙上研修 善通寺市立南部小学校 高口 佳子教諭
2年「スイミー」(教材文「スイミー」光村図書)
- 令和3年6月 四国大会の発表に向けてのアイデア等教材研究
4年「みんなで新聞を作ろう」東京書籍
4年「新聞を作ろう」光村図書の授業づくりについて
- ・新聞作りへの見通しをもち計画を立てる
 - ・内容を考える
 - ・取材をする
 - ・記事の書き方を学ぶ
 - ・記事を書く(図やグラフ等の資料を含めて)
 - ・見出しを考える
 - ・割りつけをする
 - ・仕上げる
 - ・読み合う(読んでもらう)
- 付きたい力についての「関心」を高めたり、「自信」をもたせたりするためのアイデアや意見、これまでの実践で取り組んだ例などの意見交流
- 令和3年7月 香小研国語部会夏季研修会 仲善支部実践発表
4年「みんなで新聞を作ろう」
発表者 多度津町立多度津小学校 小出 早織教諭
- 令和3年11月 研究授業 多度津町立豊原小学校 小川 ひとみ教諭
2年「たからものをしょうかいしよう」

提案の概要

(1) 今年度の仲善支部の研究

- 第4学年の新聞作りの授業を取り上げる。
- 付きたい力について「関心」を高めたり「自信」をもたせたりする「新聞作り」の授業アイデアやこれまでの実践例を部員が出し合い、研究部でまとめる。
- 経験の浅い教員、国語授業に抵抗のある教員も挑戦できる手立てや、授業づくりの視点を提案する。

(2) 単元で付きたい力

- 相手や目的に応じて、書くことの内容を選ぶ力
- 知らせたいことの中心を明確にして記事を書く力
- 相手や目的に合った表現で記事を書いたり、読み手の興味を引く見出しや割り付け、資料等を工夫したりする力

(3) 手立て

【付きたい力に対する「関心」を高めるための手立て】

- ① モデルを提示し、学習の過程を確認したりゴールをイメージしたりしやすくする。
- ② 「誰に」「どんなことを」知らせる新聞を作るのか、相手・目的を明確にする。
- ③ 児童の実態を分析して課題を具体的に提示し、そこから見方・考え方を広げていけるようにする。

【付きたい力に対する「自信」を高めるための手立て】

- ① 学び合う視点を明確にし、グループ(ペア)で学び合う場面を繰り返し設定する。
- ② 第3次「単元の学習を振り返る」を大切にする。
- ③ 繰り返し新聞作りに取り組ませる。

3 研究内容

今回の11月の研究授業では、学習指導要領における「A話すこと・聞くこと」(1)イ「相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。」ウ「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。」ということ意識しながら、伝えたい自分の宝物を紹介するという学習を通して、子どもの話す力を高めることを目標とした授業が提案された。

これまでに、児童は「はなしたいな・ききたいな」で培った学習を基に、「好きな場しよを教えよう」の学習を経験している。

本単元では、相手意識・目的意識をもって伝える力が身に付くように「始め・中・終わり」という構成と、話し方を工夫するという2つの視点で学習に取り組んでいった。話の構成では、自分の宝物に対する思いの強さを軸に、内容を取捨選択していき、話し方については、相手意識をもたせるためにペアになって聞き合い、隣のクラスの友だちに自分の宝物について伝えたいことが伝わるように話し方を工夫しようという意欲をもたせた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

- 付けたい力への「関心」を高める。

話し方を身に付けるために、ICTを活用して話している様子をペアに撮影してもらった。聞き手の立場になり話し手である自分の話し方を客観的に振り返ることができた。目線も含め、声の大きさや口の開け方、姿勢などを確かめ、よさや改善点に気づき、よく伝わるように練習していこうと意欲的だった。

【今年度の研究での課題】

- 評価について

評価については、まだ研究が十分に深まっていない。今後、研究の柱の一つとして取り組んでいきたい。

- 付けたい力を明確した上で単元構成を工夫する。

単元構成を考える際、どのような言語活動を通して、どのような力を身に付けるのかを吟味して教材研究を行うことが大切である。相手に伝えたいことが伝わるような構成を練る時間と、場や相手に応じた話し方を工夫し練習する時間を児童の意識のつながりを大切にしながら単元の中で展開されるように今後深めていきたい。



三豊・観音寺支部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開
—付けたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくり—

2 研究活動の概要

- (1) 4月21日(水) 三観小研国語部理事研修会(三豊市立吉津小学校)
 - ・ 研究主題・組織, 研究計画について
 - ・ 香小研夏季研修会の発表について
- (2) 7月1日(木) 三観小研国語部理事研修会(三豊市立吉津小学校)
 - ・ 香小研夏季研修会実践交流の発表内容検討
- (3) 7月26日(月) 三観小研国語部部員研修会(三豊市市民交流センター)
 - ・ 研究主題に基づく実践交流の発表および研修

3 研究内容

部員研修会では、令和元年度に行われた三豊市立詫間小学校の研究内容の報告と研究内容のもとに実践された単元について、ワークショップを交えながら研修を行った。

(1) 三豊市立詫間小学校の研究から

三豊市立詫間小学校の研究の4つの重点 ①言葉による見方・考え方を鍛える ②学習問題づくりの改善 ③協働的な交流活動の実践 ④豊かな言葉を育む環境づくりの中から①②を取り上げ、説明を行った。

ア 言葉による見方・考え方を鍛える

学習指導要領では「見方・考え方」と一括りだったものを「見方」と「考え方」に分けて分析し、説明的な文章、文学的な文章のそれぞれで系統表に整理した。このことによって、どの学年でどんな言葉の力を付けなければならないかが具体的になった。さらに、考え方を「比較(比べる)」「関係付け(つなぐ)」「具体化(動作化等)」「総合(まとめる)」「吟味(問い直して深く考える)」の5つに絞ったことで、授業の中で使える思考の方法が明確になった。これらを授業の中で、「読むコツ」として積み上げていくことで言葉による見方・考え方を鍛えることをねらった。

イ 学習問題づくりの改善

学習問題づくりの改善では、児童が必要を感じた問いであることと、教師が付けたい資質能力を付けられる問いであるという両者の思いにかなう、価値ある学習問題かを見極められることを大切にしたい。そのため、各学年で単元ごとに重点的に付けたい資質能力を洗い出し、どんな見方・考え方が必要なのか一覧表に整理した。それをもとに学習問題づくり計画表を作成した。学習問題づくり計画表では、どのような方法でどのような学習問題を作るのか児童の反応を予測しながら計画した。また、学習の中で新たな問いとして考えさせたいこともあらかじめ計画した。

(2) 指導の実際（三豊市立勝間小学校の実践から）

詫間小学校の実践をもとに行われた6年「イースター島にはなぜ森林がないのか」についてワークショップを取り入れながら研修を行った。

まず、付けたい力を確認した後、教科書の手引きにある手順に沿って、段落番号をうち、序論・本論・結論に分ける活動を行った。実際にやってみると、結論を見つけることが難しく、授業の最初に分けるのではなく、学習を進める中で構成をつかめればよいのではないかということが確認できた。

次に学習問題づくりを行った。小グループに分かれ、各自が題名から分かることや分からないことを書きだし、それを分類した。分類してみると「どこの・ど



んな」という序論を要約すれば解決する問題と「なぜ・どのようにして」という本論から結論を要約すれば解決する学習問題の2つが挙げられた。このことから、学習問題を作り、解決することで、結論までを読み取ることができることが確認できた。

その後の学習活動について、勝間小の実践では、2つの学習問題を解決すると、児童から、結論が書かれた後の段落の必要性について疑問が生まれた。「書く必要があったか」という3つ目の学習問題を吟味するクリティカルリーディングを行うことで、筆者の願いに迫ることができた。

また、学習活動の中で、筆者の意見を読み取る前に、「事実」と「意見」を見分けるためのドリル（三豊市の各小学校に配布されている「ことだまドリル」）についての活用例も示された。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 付けたい力を明確にする

- ・ 言葉による見方・考え方についての系統表や重点的に付けたい資質・能力の系統表を作成し活用することで、各学年で付けたい力とその力を付けるために必要な見方・考え方が明確になった。このような教材分析が必要であることが分かった。また、授業の中で、児童自ら「見方・考え方」を働かせることができるように、カードを作って掲示したり、必要に応じて板書の中に取り入れたりして活用するなど、児童に付けたい力を意識させることも大切であることが明らかになった。

【今年度の研究での課題】 付けたい力につながる児童の「関心」を高めたり「自信」をもたせたりする授業づくり

- ・ 単元の始めや学習を進めていく中で、児童が「～の力が必要だ」「その力を付けたい」等の必要感や興味をもたせることが必要である。そのための働きかけについて、さらに具体的な方法を探っていきたい。

さぬき・東かがわ支部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が主体的に学ぶ国語科学習の在り方
—付けたい力に対する児童の「関心」を高めたり「自信」をもたせたりする支援の工夫—

2 研究活動の概要

- ・ 11月25日（木） さぬき・東かがわ小学校教育研究会 国語部会研修会
第3学年 単元名「すがたをかえる大豆」
安田亘輝先生の実践より

3 研究内容

（1）導入場面で ICT 機器を意図的に使用した、意欲的な学習のための支援

「すがたをかえる大豆」の読み取りで、iPad を使用した。ローマ字を習ったこともあり、積極的に活用している。「中」の部分の読み取りで、3段落から6段落を iPad 上でばらばらに提示し、正しい順番に並び替える活動を行い、段落の順序性について考えた。その際に「つながぎ言葉」に着目させることが、順序性を考えにくい児童の手立てとなった。

【討議内容】

- 普段から授業に取り入れていることもあり、iPad を使うことに抵抗なく楽しんで取り組んでいた。
- ▲ iPad を使うから意欲が高まるという考えには疑問がある。

（2）視点を絞ったグループでの話し合いや授業の振り返り

導入場面で考えた、「中」の段落の順序性について、なぜその順番でないといけないのかを考える活動を行った。4つの視点（つながぎ言葉、おいしく食べる工夫、大豆の形、作り方）の中からグループで1つを担当し、まずは個人で考え付箋紙に書く。次に、付箋紙をもとにグループで話し合い、「同じ意見」「違う意見」「なるほどと思った意見」に分類する。最後に、グループで出た意見を全体で共有することにより、簡単な例から難しい例へと順番に説明している筆者の説明の仕方の工夫を捉えた。また、例がどんどん難しくなっていくことで、読み手にも大豆の工夫のすごさが感じられるようになっていくと気付いた。その後の児童の振り返りでは、「実際に（説明的な）文章を書いてみたい」という意見や、「（本時の）授業で分かったことを（次時に）生かしたい」というような意見があった。

【討議内容】

- 視点があることで、児童がゴールを意識して活動することができた。
- 全体交流では、各グループから出た意見をうまくまとめることができていた。
- 児童の多様な振り返りが見られた。他の児童の振り返りも見たい。
- ▲ グループごとに視点を教師が指定するのではなく、グループごとに視点を選ばせた方が主体的な活動となり意欲が高まる。
- ▲ 「中」の本文だけでなく、題名や筆者の考えとつないで説明文を読み取っていくことが大事ではないか。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】児童が自ら学ぶ姿の見取り

- ・ 動画での研究授業という新しい研究授業の在り方が確立された。また，タブレットの効果的な使用法として，グループ活動の際に各班1台ずつタブレットを設置し，話し合いの様子を撮影することで，その深まりの様子が詳しく見られた。評価にもつながる。

【今年度の研究での課題】

- ・ 新型コロナウイルスの影響により，部会に所属する教員同士が集まっての事前研修が開催できなかった。授業だけでは課題が残る部分もある。教員の指導力の向上に向けて，今後は何らかの方法を使って教員同士がつながる場をつくり，課題を解決していきたい。

小豆支部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開
一付けたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくりー

2 研究活動の概要

- (1) 4月22日(木) 土庄小学校 研究組織作り 研究計画の立案
- (2) 10月7日(木) 土庄小学校 第1学年 「かいがら」 実践報告

3 研究内容

(1) 第1学年「かいがら」の授業について

本単元「かいがら」の授業までに、1年生で初めて触れる物語文である「とんこととん」では、子どもたちが動きを付けながら楽しく学習した。次の「おおきなかぶ」では、だれが何をしたか人物のことを想像しながら読み進めた。そして、「かいがら」へと学習を進めた。

本単元では、会話文に着目して読み、人物の行動を具体的に想像することができることを目標にしている。そのために、くまのこの様子が現れている地の文を話の筋に沿った会話文に変更することで、人物の様子を具体的に想像できるようにした。

①導入について

まずは、会話文だけを読んでみて、話の内容が分かるか子どもたちに問う。すると、子どもたちは「分からない」と反応を示したので、『地の文を会話文に直して、会話文だけで話が伝わるようにしよう』ということで子どもたちの意欲の向上を図っていった。

②展開について

子どもたちの選んだ地の文を会話文に直せるワークシートを作成し、授業を進めた。考えがもちにくい児童には、何種類かヒントカードを用意し、自分の理解度に合わせたカードを選べるように支援を工夫した。また、読みを深めるために、体で交流し、いろいろな考えがあることに気づけるようにした。

③振り返りについて

自分たちで作った会話文の役割読みをして、くまのこの様子が具体的によく分かるようになったことを実感させた。そして、次の場面の挿絵を見せて、次時の学習への期待感がもてるようにした。

(2) 指導・講話 (元安田小学校校長 川井 文代先生)

①教材研究において大切なこと

指導案は分かりやすいことが大切であり、シンプルである方が好ましい。そのためには、指導事項は1単元1事項を目安にして授業を組み立てていく。1事項が何なのかを大事にすることで、自然といろいろな力が付随してくる。また、単元の最後には、子どもたちが「よく分かる」ということを実感し、言語化できる学習事項を明文化するべきである。

教師が目標値をきちんと持ち、国語として本単元で何の力をつけるべきかを明確にしなければならない。当該学年の指導事項の系統を整理し、次の単元に移れば、新しい

指導内容があるという単元づくりを行う。そして、その単元でなければならないことを見つけていく。

さらに、子どもたちが「やってみたい」「意味がありそう」などの見通しや意欲をもてる言語活動を含んだ単元化を行うことが特に大切である。付けたい力を明確化し、子どもが「やってみよう」と思えるように教材研究をしていく必要がある。

② 教材研究について

教材研究をする際には、教科書と指導要領を参考にし、既習事項や指導すべきことを確認する。新しい指導事項を中心に学習を進めていき、既習事項にあたる学習は子どもたちの力だけでできるような宿題などにする。

③ あらすじについて

あらすじにはいろいろな種類があるので、書き方の方法を教える。

ア 段落ごとに大事な言葉や文をまとめていき、それを1つの文章にする。

イ 物語文の場合、「いつ誰がどうなったか」に当てはめて、全体を俯瞰してまとめる。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】付けたい力の明確化

教材研究をするときに、付けたい力を明確化することで、単元構成が焦点化されている。系統立てて6年間を見越して指導することの必要性がわかった。

【今年度の研究での課題】関心を持続させる単元づくり

子どもたちが「よく分かる」ということを実感し、言語化できるよう、指導案の中にそのような学習活動の設定を明文化し、何の力を付けるべきかを明確にするための系統を整理して教材研究を進めていかなければならない。